

## 流域治水シンポジウムアンケート調査(水害体験)

1. 水害を体験したことがありますか？	2. いつごろ、どこで体験しましたか？	3. そのときの様子、行動を教えてください。
ある	昭和61年7月 京都府相楽郡(県外)で。(61災害時の土木事務所職員でした)	道は冠水、住家は土石流で流され、関西線は不通となり徹夜が続いた。
ある	昭和34年 八日市市尻無町。(蛇砂川) 昭和47年9月 八日市市瓜生津町。(蛇砂川)	小学生で学校は休み。次の日学校へ行く道が無くなっていった。 仕事で堤防の破壊された所へ行った。地元の方々がたくさん集まっておられたが、何も出来ない状態だった。天井川の堤防が切れた時は、水が流れて来なくなるまで、何も出来ない。
ある	昭和28年9月 竜王町弓削地先 祖父川 巡検橋の上流決壊 昭和34年9月 竜王町弓削地先 浸水、たい水 最大2.5m以上	小さな湖のような状態だった。 幸いにも家は各戸2m～3m石積で保護されているため、床下浸水2～3戸ぐらいであった。明治29年の大水害より土砂を盛り上げ、家を守ったと言い伝えられている。
ある	昭和37年頃 近江八幡市市内	床下浸水
ある	昭和20～30年代の台風時 大津市膳所 昭和60年代 愛知川の増水	何回か床下浸水があり、汲取便所があふれたり、床下が泥だらけになった。 増水で同僚が死亡し、工場が1～1.5mの浸水で操業停止になった。
ある	昭和28年(県外です)	堤外民地内の家屋が流され、私の家は洪積(河岸)台地のため避難して来た。家は田畑の冠水と土砂流の流入であった。 昭和48年か49年に城陽(古川=旧木津川流域)で住んでいる時床下浸水した。しかし仕事で私は出勤し、妻と幼稚園の子供2人で対応。
ある	日野川周辺(上流から中流) (伊勢湾台風)	稲穂が実っている田んぼが、ながされてしまった
ある	43～44年 床下浸水 猿ヶ瀬？	たたみを上げた
ある	昭和28年13号 信楽町牧 雲井橋	家の石垣の下まで
ある	昭和45年9月ごろ(?) (旧)神崎郡永源寺町蛭谷地先	台風の影響による大雨で集落内の川が氾濫 近所の民家の裏山が崩れ、川の水が家屋内に浸入 泥水が浸入した家屋内へのり、家人を救出しました
ある	名古屋で伊勢湾台風 滋賀県へ来てからない	
ある	昭和11年 京都市中京区西ノ京円町 昭和30年 京都市中京区西ノ京円町 天神川ノ紙屋市による洪水	床下浸水であり水を流した。
ない (21人)		

## 流域治水シンポジウムアンケート調査(ご意見・ご感想)

4. その他、シンポジウムへのご意見・ご感想を聞かせください。
県の防災部局との共同シンポジウムはできますか？
水害から命を守る地域づくりツリーで 災害・大規模事等と同様なのか？なにが違うのか。一体として出来ないのか？
「地域防災力を高める処方箋」時間が短すぎて、レジュメの半分程度が講演なされなかった。残念であった。今後機会を見て実施されたい。
片田先生の講演について。私の住んでいる町(集落)は洪水災害の常襲地帯です。地域防災について大変勉強になりました。自治会の代表等に参加してほしかった。
最近も国土交通省は100-200年の大雨に対してはダムが有効であり、その為には日本中で百個程度のダムが必要という。行政は何十年の雨に対して対策と、何年間に一度と言う言い方をするが、これを聞いた人は、今後何十年間は災害がないと思ってしまう。
水害があるものとして、床の高さを高くするとか、特に床下浸水が考えられるところの住宅の建設には別の建築基準を作ればよいと思うのだが。故ケネディ大統領が述べられた「国に何かを求めるのではなく、君が国に何を出来るか」の言葉をひとりひとりが考えるべきではないか？
長浜市の市街地の浸水は側溝規格(古い。古過ぎる。)が時代に合っていない行政の怠慢だ。
焦点を絞って議論すべき。河川の改修が出来ないという観点で、地域の防災力を高める方法について議論すべきになった。(流域治水シンポジウムだから)
ボランティアは金を要求するのは不思議だ。私は無料でボランティア毎回してる。
人は現状にあわせて行動や判断をするものだと思います。
安心、安全が高まればそれが当たり前のように思ってしまう。
便利になればなったでそれが前提の社会になれてしまう。それがくずれるとやっぱり困った困ったということになるのである。
つまり、人々を取り巻く現状を住民も行政も互いによく理解認識することが大事であるとする。
あらためて、地域防災力の大切さがよくわかりました。
誰がするのか、など言わないで、南牧村の集落の人たちに学ばなくてはなりません。
「ハザードマップは行政だけではなく、地域にある智恵を出し合って作る」という。すばらしいことだと思う。
今回の流域治水シンポジウムにしる、他のテーマのものにしる、TVで放映されるものになっていくようになればうれしく思います。
例：教育テレビ 日曜 18:00～19:00「日曜フォーラム」 びわ湖放送の特番
意見が活発に出てよかった。
回答も具体的でよかった。
「カネの音」が良かった。
大橋様が非常事態に備えて内外不出の半鐘をご紹介くださったこと。歴史ある流域治水のとりにくみに敬服いたしました。
要約筆耕ではなかったですが、職員さんがお一人で発言者の主旨を直接で表示して下さったのもよかったです。
本日の県民宣言には、行政 県民の記載となっている。
行政における、河川管理者の行政、防災の一義務的責任をになう市町の行政をしっかりと分けて進める必要があると感じた。
片田先生の基調講演があると聞いて来ました。学会誌などで先生の論文など読んだこともあって、ぜひ一度聞いてみたいと思っていました。
流域治水への取り組み(ソフト)について勉強させていただきました。 ハードの限界
たいへん意義のあるシンポジウムでした。
全国にさががけての滋賀県のとりにくみを応援しております。
県のみなさん、ぜひよろしく申し上げます。
非常に住民としてこれから行動していくのに役に立った。
こうした会を県内各地で開いて住民市民が自分のこととして流域治水を考えていけたら！！と思う。
滋賀県は琵琶湖から流出するのは瀬田川と関西電力より天ヶ瀬ダムに行く水、疎水により三井寺の近くから京都に注ぐ疎水があります。これ等をより有効に使う工夫がある。
直接の体験はありませんが、実際水害を間近で見たことはあります。そのとき、技術の限界を見た気がして、それ以外に何かないのかと思いました。
そういう意味で流域治水には非常に期待しております。
滋賀県で新しい姿ができることを願っています。
流域治水を日常的に伝える、実感できるリアルな場との連携 (アクア琵琶の治水周知機能、日常的な住民ネットワークの場ウォーターステーション琵琶)
有意義なシンポジウムであったと思います。
全国に先駆けた、流域治水プロジェクトの着実な実施を希望いたします。
地域の防災に関心を持ちました。小さなことでも危険をはらんでいる事があります。危険を感じ想定する感覚を子供達に身につけてほしいものです。

ご協力ありがとうございました。